

臨床検査医学科

● スタッフ（平成29年10月1日現在）

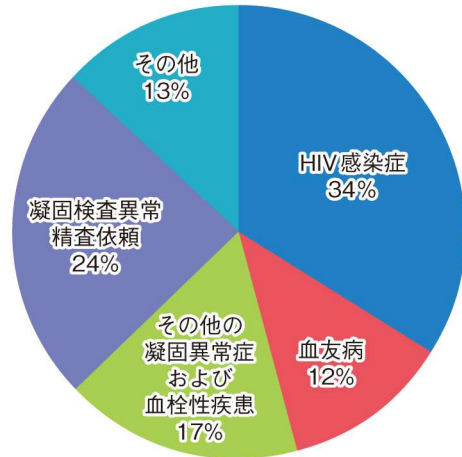
診療科長 福武 勝幸
 医局長 四本 美保子
 外来医長 萩原 剛
 病棟医長 備後 真登

医師数 常勤 15名
 非常勤 2名

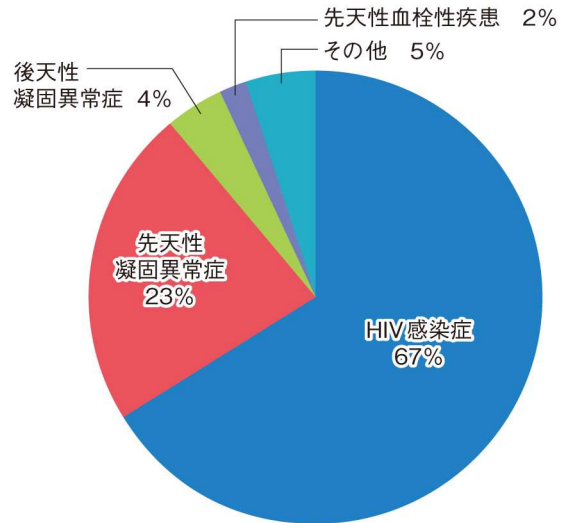
● 診療科の特徴

臨床検査医学科は、血栓止血異常、HIV感染症、輸血診療を専門とする診療科である。血栓止血異常では、先天性凝固止血異常の代表疾患として血友病がある。血友病では関節内出血、筋肉内出血、消化管出血、脳出血などの出血予防と止血管理、または手術にともなう止血管理をおこなう。繰り返す関節内出血による慢性変化である血友病性関節症は整形外科やリハビリテーション科とともに診療している。血液製剤由来の感染症としてHIV感染症やC型肝炎の治療も行う。また、血友病推定保因者の確定診断を希望する女性に対し、遺伝相談と研究レベルの遺伝子解析検査も行っている。近年、新規血友病治療製剤の開発が盛んであり治験を行っている。血友病以外の先天性凝固止血異常には von Willebrand 病、低フィブリノゲン血症、先天性第 V 因子欠乏症、先天性第 VII 因子欠乏症、先天性第 X 因子欠乏症、先天性第 XI 因子欠乏症、先天性第 XIII 因子欠乏症、血小板無力症、ベルナルド・スーリエ症候群など、また後天性疾患として後天性血友病、後天性 von Willebrand 症候群、DIC、ビタミン K 欠乏症などがある。血栓性疾患としては先天性アンチトロンビン欠乏症、先天性プロテイン C 欠乏症、先天性プロテイン S 欠乏症、抗リン脂質抗体症候群などが対象疾患である。HIV 感染症は急性期、慢性期および、後天性免疫不全症候群（AIDS）すべてを対象としている。平成 29 年度の新規患者は 102 人であり、現在約 1300 人が通院している。HIV/AIDS 関連性疾患としてはニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、食道カンジダ症、カポジ肉腫、非ホジキンリンパ腫、結核、非結核性抗酸菌症、クリプトコッカス髄膜炎、トキソプラズマ脳症、進行性多巣性白質脳症、HIV 脳症が多い。輸血診療としては主に各科の術前自己血貯血を行っており、年間 700 件ほど対応している。

平成 29 年度外来初診内訳
 （自己血貯血を除く）



平成 29 年度入院診療内訳



平成 29 年度外来患者

年間初診患者数	775 人
自己血貯血患者数	478 人
年間主科入院患者数	102 名
年間併診入院患者数	142 名

平成 29 年度外来初診患者は 775 人。自己血貯血初診 478 人を除いた初診患者の内訳は HIV 感染症 102 人、血友病 32 人および血友病保因者 4 人、その他の凝固異常症および血栓性疾患が 50 人、凝固検査異常精査依頼が 70 人、その他が 39 人であった。

平成 29 年度入院件数は 244 件で主科入院が 102 人、併診入院が 142 人。主科入院内訳は HIV 感染症が 71 人（うち血友病合併 4 人）、血友病を代表とする先天性凝固異常症が 24 人、後天性血友病を代表とする後天性凝固異常症が 4 人、先天性アンチトロンビン欠乏症、プロテイン C 欠乏症、プロテイン S 欠乏症などの先天性血栓性疾患は 2 人、その他が 5 人であった。